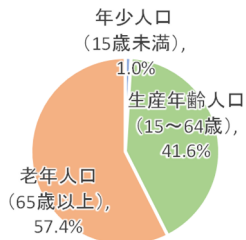


切 畑 (きりはた)

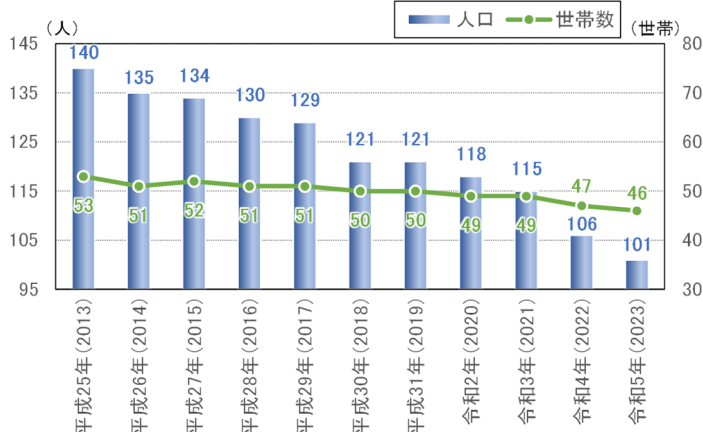
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人 口	101 人
世 帯 数	46 世帯
高齢化率	57.4 %

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立 地 集落の周囲には山が迫る。標高350mの高地にある農山村で、棚田や棚畑が多い。北西流する照来川と川に並行する県道丸味温泉線に沿って、南北に家屋が散在する。

地名由来 切畑の語意は、『広辞苑』によると、山腹を切り開いた畑、焼き畑などの場所とされているが、不明。

歴史等 集落東側の三原野高原から縄文時代の土器が出土している。南の尾根には、南北朝期から戦国期の切畑城跡がある。集落は当初3戸であったと伝わり、それぞれ奥根、向根、西根の屋号がつけられている。

近世の切畑村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保2年(1831)以降34年間の宗門改帳が保存されており、家数・人数は、天保2年(1831)36・177、天保8年(1837)30・141、弘化4年(1847)32・145、安政4年(1857)33・164であり、天保4年(1833)~天保10年(1839)の天保の飢饉による減少が見られる。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は201石余。特産物は但馬牛。

明治22年(1889)照来村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数42、人口は男106・女103。

これまで把握している文化財

文化財の件数 27 件 (うち指定等文化財 2 件)

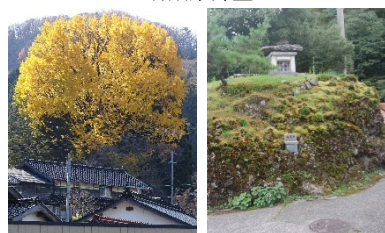
大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	0	15
		石造物	0	
		工作物・その他の構造物	7	
	美術工芸品	彫刻	5	
		絵画	1	
		土芸品	0	
		書籍・典籍	1	
無形文化財	その他の無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	1	0
		音楽	0	
		演劇	0	
		工芸技術	0	
		その他の無形文化財	0	
		信仰の場	2	
		祭具	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	民具	0	6
		その他の有形の民俗文化財	0	
		年中行事・民俗芸能	1	
	無形の民俗文化財	民俗技術	0	
		食文化	0	
		民間説話・俗信	3	
		その他の無形の民俗文化財	0	
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	1	5
		古墳・その他の墓	0	
		城館跡・寺社跡	1	
		街道・古道等	0	
		戦争遺跡	0	
	名勝地	その他の遺跡	0	
		山岳・高原・丘陵	0	
		海岸・海浜・島嶼	0	
		河川・滝・溪谷・湖沼	0	
		公園・庭園	0	
動物・植物・地質鉱物	その他の名勝地	動物	0	
		植物	1	
		地質鉱物	2	
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	1	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



稲刈帳



切畑薬師堂

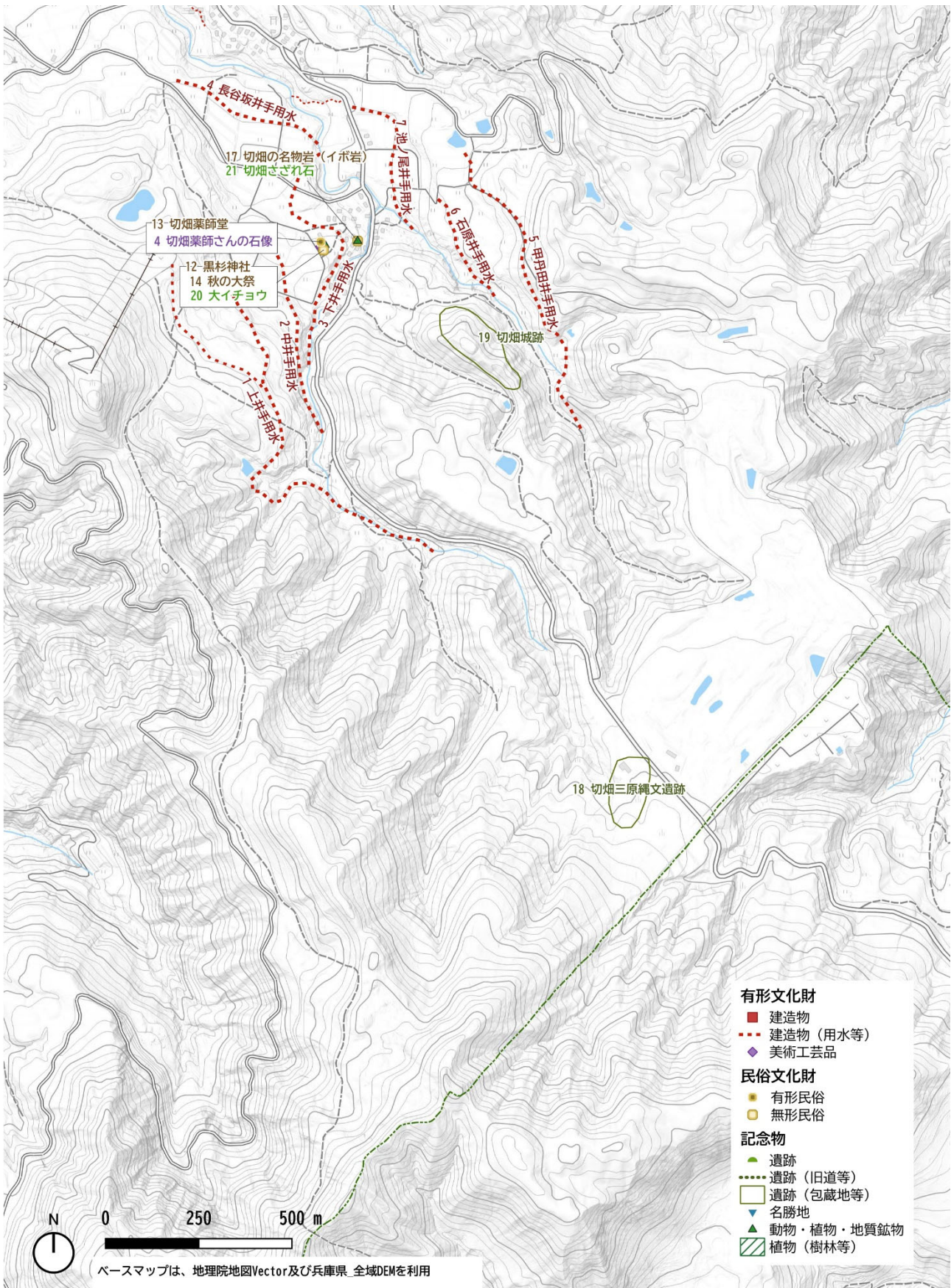


黒杉神社の大イチョウ

切畑さざれ石

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

5-01 切畑

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
工作物・ その他の 構造物	1	中井手用水	近世に築造された水路。水路延長 1,000m、灌漑面積 1.80ha。取入口は切畑字大谷、排水口は照来川。
	2	下井手用水	近世に築造された水路。水路延長 2,000m、灌漑面積 4.00ha。取入口は切畑字岡田、排水口は照来川。
	3	長谷用水	近世初期に築造された水路。水路延長 1,000m、灌漑面積 5.10ha。取入口は切畑字計田、排水口は照来川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	4	切畑薬師さんの石像	25×28cm の石像。村の神社境内の続きの堂の祭壇に、木像 4 体とともに、その中央に祀られる。
	5	切畑薬師さんの木像(1)	80×25cm の木像。村の神社境内の続きの堂の祭壇に祀られている木像 4 体のうちのひとつ。外形はかなり傷んでいるものもみられるが、村の人たちの現生安穩来世善処と回向して大切に祀ってきたことがうかがえる。
	6	切畑薬師さんの木像(2)	70×25cm の木像。村の神社境内の続きの堂の祭壇に祀られている木像 4 体のうちのひとつ。外形はかなり傷んでいるものもみられるが、村の人たちの現生安穩来世善処と回向して大切に祀ってきたことがうかがえる。
	7	切畑薬師さんの木像(3)	80×25cm の木像。村の神社境内の続きの堂の祭壇に祀られている木像 4 体のうちのひとつ。外形はかなり傷んでいるものもみられるが、村の人たちの現生安穩来世善処と回向して大切に祀ってきたことがうかがえる。
	8	切畑薬師さんの木像(4)	80×25cm の木像。村の神社境内の続きの堂の祭壇に祀られている木像 4 体のうちのひとつ。外形はかなり傷んでいるものもみられるが、村の人たちの現生安穩来世善処と回向して大切に祀ってきたことがうかがえる。
絵画	9	切畑薬師堂の絵馬	概要不明
書跡・典籍	10	稲刈帳	この資料は、私家文書で天保 15 年 (1844) から明治 17 年 (1884) までの 40 年間の稲を刈った量が記録されている。各水田の毎年の収量 (束) や「因幡早生」「徳丸」などの品種名が記されており、当時の稲作技術の発達状況などが推定できる。このような稲刈帳は島根県の赤間家文書が良く知られているが、全国的にも極めて珍しいものであり、近世末期の農村経済史を知るうえで貴重な資料である。 町指定文化財
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	11	倉田家文書	概要不明

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	12	黒杉神社	祭神は応神天皇、大己貴命、少彦名命。創立年月は不明であるが、大己貴命の神誨により、社内の杉を零墨として拝齊したもので、社殿を備えずに社号を黒杉神社といい、明治 6 年 (1873) 3 月に村社となった。大正元年 (1912)・大正 7 年 (1918) の大水害で境内はほとんど流失し、毎年の例祭も無格社八幡神社の境内より遥拝するようであった。このため、昭和 2 年 (1927) 10 月、八幡神社に移転合祀し、社名を黒杉神社と改称した。
	13	切畑薬師堂	概要不明

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	14	黒杉神社秋の大祭	10月1日に行われる。
民間説話・俗信	15	ちんぴんろく	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p84参照
	16	切畑のむかし話	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p120参照
	17	切畑の名物岩（イボ岩）	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p171参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	18	切畑三原縄文遺跡	縄文時代の散布地。スキー場造成の際に縄文土器と石鏃（黒曜石製）などが出土。
城館跡・寺社跡	19	切畑城跡	中世の城館跡。規模的には地侍クラスの「村の城」である。部分的に小規模な曲輪群が残ることから、その築城起源は南北朝期に遡るが、戦国末期の堀切・堅堀や畝状堅堀による補強・改修が見られる。小規模ではあるが堅堀が卓越する縄張りから、戦国期には多子集落の2城（多子城・下津谷城）とともに、照来地区（寺木庄）東端の守護を担っていたものと思われる。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	20	黒杉神社の大イチョウ	集落の高台に位置する黒杉神社の境内に入ると、神殿に登る石段の脇にご神木のイチョウの巨木が根をおろしている。幹周5.1m。 町指定文化財
地質鉱物	21	切畑さざれ石	区内に数十か所存在する珍しい石。
	22	照来盆地	「照来米」「但馬牛」「照来清水」など、地質、地形、水質などの恩恵を受け、歴史、食などが豊富に存在する。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	23	照来盆地の棚田	地すべり地の緩斜面を利用して拓かれた棚田。